



ふくおか [Good] 農業人100  
 主な農産物 / ミディトマト

# 平井 祐太郎さん (28歳) (営農地 / 筑後市)

## 製造業から農業へ。自分でイチからものづくり

《就農のきっかけ》

### “自分でやる”ことで得た確かな手ごたえ

実家は稲作を中心とした農家でしたが、就職先は食品会社を選び製造関係の仕事をしていた平井さん。もともと、ものづくりは好きで、特に数年前からは自分で何かやってみたいという思いが強くなり10aほど露地野菜作りにチャレンジ。「仕事は続けていたので遊び半分、勉強半分の気持ちでした。手が回らず苦労しましたが、一通り収穫・出荷まですることができました。」と平井さん。このことをきっかけに、就農への気持ちが大きくなったそうです。「農業の道でくじけずにやっていけるか、正直不安はありました。近隣のトマト農家で1年間研修生として技術を学び、頑張れる自信がついたため27歳の時に就農し、JA契約トマト研究会に加入しました。」と笑顔で話してくれました。

《これまでの過程》

### 目標とする栽培イメージの確立と仲間づくり

「研修は地元のトップ農家の方をお願いしました。自分のトマト栽培の大きな目標とするためにも、どうしてもトップの方の技術を学びたかったのです。研修は大変厳しかったですよ。それはもう、一生懸命に頑張りました。でも厳しさ以上に面倒見の良い優しい方々で、みっちりトマト栽培の基礎、理想とする株作りを学ぶことができました。」と笑顔で当時を振り返る平井さん。研修中から部会の講習会などに積極的に参加。トマト栽培の勉強とともに、たくさんの先輩農家との交流ができました。就農後、いざ自分ひとりでやってみると、まだまだわからないことだらけで手探りの状態が続きましたが、いろんな人からアドバイスを受けることができました。「研修から1年でスムーズに就農できたのも、みなさんの助けがあったからです。」と平井さんは語ります。技術に対する向上心と仲間作りは大切なポイントのようです。



プロフィール

■家族構成 / 本人、妻、子ども1人 ■前職 / 菓子製造業  
 ■営農年数 / 約1年 ■耕作(経営)面積 / ミディトマト(14a)  
 ■販路 / JA共販

《これからの展望》

### まずは経営の安定から

「毎年、安定して高収量を上げるようになりたいです。経営が安定したら、徐々に規模拡大も視野に入れたいと考えています。少なくともあと3~4年間はそのまま頑張ります。」と、語る平井さん。着実に一步一步ステップアップを目指すそうです。また、平井さんは「今はひとりでやっていますが、子供が大きくなったら夫婦で農業をやりたいと思っています。トマトは栽培が非常に難しいと言われますが、私にとっては自分自身の技術力・判断力を総合的に高めるチャンスだと考えています。最終的にはトマト経営を軸に、他の野菜栽培にも取り組んでみたいですね。」と、これからの夢も教えてくれました。



### Good 成功のためのポイント

トップ農家のところで研修を行うことをお勧めします。目標とする栽培イメージがあるとないとは大違いですから。あと、仲間づくりは重要です。非常に心強いものです。